

Sustainability

サステナビリティ担当役員メッセージ



事業活動と環境、社会への影響の 均衡を取りながら成長し、 革新的な価値創造をめざします

執行役員
チーフストラテジーオフィサー
ジョセフ・リナルディ

「均衡」ある成長をめざして

優れた企業のトップ・プライオリティには、必ずサステナブル・マネジメントが入っていると一言でも過言ではないでしょう。そして私たちが問われているのはもはや、環境や社会の持続可能性に即した成長を志向する経営の是非ではなく、どう実践していくかです。これまでも、サステナビリティが三菱ケミカルグループの特長であったことは間違いなく、今後も変わることはありません。新体制下においてもサステナビリティを重要な経営テーマと捉え、これまで同様、ストラテジーの中に位置付けて注力していきます。

新経営方針「Forging the future 未来を拓く」に沿い、市場のニーズと環境や社会への影響の均衡を取りながら、ステークホルダーに優れた価値を提供する革新的な事業成長をめざしていきます。

マテリアリティへの取り組み

当社グループでは、事業基盤、環境や社会への影響といった観点から、当社が取り組むべきマテリアリティを設定し、その進捗を測るKPIと目標を設定しています(▶P.70)。「One Company, One Team」カルチャーを持つフラットな組織のもとで、コーポレート機能部門、事業部門、戦略部門が一体となり、目標達成に向けた取り組みを加速させ、サステナビリティの推進を強化していきます。また、進捗を円滑に把握し、ステークホルダーの皆さまとの積極的なエンゲージメントにつなげられるような運用をめざします。

2021年度は、カーボンニュートラル実現に向けた方針(CN方針)を発表したことに加え、カーボンニュートラルやサーキュラーエコノミーに向けた企業活動への転換を図るためのマネジメントツールとなるLCA(ライフサイクル・アセスメント)算定シ

ステムの整備も進展しました(▶P.76)。今後はCN方針の実現のため、毎年、適切な投資を行っていきます。

人・働き方の面では、経営層と従業員との対話機会を増やしたことで相互理解が深まり、経営層における多様性も高まったことで、ダイバーシティ&インクルージョン促進の土台が整いつつあります。

一方で、労働安全とコンプライアンスは決して満足のいく結果ではありませんでした。企業存立に関わる重要な課題に対し、これまでに増して全社一丸となって取り組んでいく必要があります。

ステークホルダーの期待に応えるために

社会経済情勢の先行きが非常に見通しにくい中においても、サステナビリティに関する情報開示の枠組みをめぐる動きは加速しています。これは、私たちのステークホルダーや社会がサステナビリティに寄せる期待の高さを示しているものと認識しています。

私たちは、その期待に沿った企業成長と価値創造をめざし邁進するとともに、その過程と成果に対する説明責任を果たし、透明性の高い企業活動に努めます。